

## 令和 7 年度第 2 回熊本県環境影響評価審査会第二部会 次第

日 時：令和 7 年（2025 年）11 月 28 日（金）9 時 30 分～  
場 所：熊本県庁 本館 5 階 審議会室

### 1 開 会

### 2 議 題

「長洲港土砂処分場整備事業に係る環境影響評価準備書」について

### 3 その他

### 4 閉 会

#### 【配付資料】

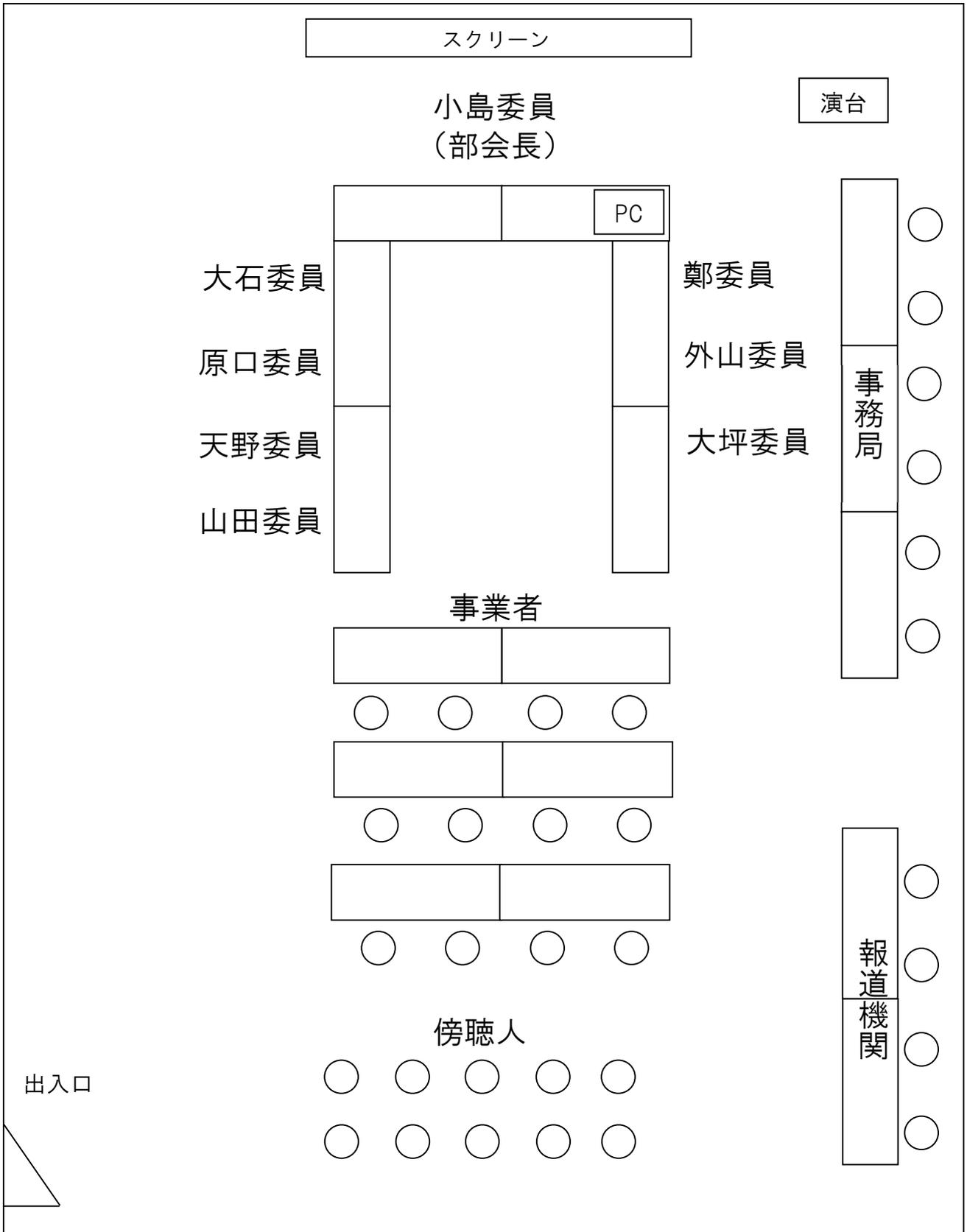
- (1) **資料 1** 令和 7 年度第 2 回熊本県環境影響評価審査会第二部会 次第
- (2) **資料 2** 長洲港土砂処分場整備事業に係る環境影響評価準備書の手続について
- (3) **資料 3** 「長洲港土砂処分場整備事業に係る環境影響評価準備書」に係る意見について（照会） ※委員限り
- (4) 長洲港土砂処分場整備事業に係る環境影響評価準備書 説明資料
- (5) 長洲港土砂処分場整備事業に係る環境影響評価準備書 説明資料（非公開） ※委員限り

令和7年度第2回熊本県環境影響評価審査会第二部会 委員出席者名簿  
(敬称略)

	氏名	分野	所属・職名等	出欠
1	小島 知子	大気質、悪臭、 温室効果ガス等	熊本大学大学院先端科学研究部 准教授	○
2	山内 勝也	騒音、振動、低 周波空気振動等	九州大学大学院芸術工学研究院 准教授	－
3	大石 京子	水質、水象等	元佐賀大学 客員研究員	○
4	細野 高啓	地下水、地形・ 地質等	熊本大学大学院先端科学研究部 教授	－
5	古賀 伸久	土壌等	国立研究開発法人農研機構 九州沖縄 農業研究センター グループ長補佐	－
6	原口 研治	陸上動物(鳥類)	日本野鳥の会熊本県支部 事務局長	○
7	竹松 葉子	生態系、陸上動 物等	山口大学大学院創成科学研究科 教授	－
8	天野 守哉	生態系、陸上植 物等	熊本県希少野生動植物検討委員会 調査員	○
9	山田 勝雅	生態系、水生生 物等	熊本大学くまもと水循環・減災研究教 育センター 准教授	○
10	鄭 一止	景観	熊本県立大学環境共生学部 准教授	○
11	外山 由恵	触れあい活動の 場等	合同会社事務局 執行役員	○
12	鈴木 慎也	廃棄物等	福岡大学工学部 教授	－
13	大坪 志子	文化財等	熊本大学埋蔵文化財調査センター 准教授	○

○：出席 －：欠席 (出席：8名)

席 次 表



# 「長洲港土砂処分場整備事業に係る 環境影響評価準備書」の手続について

令和7年11月 環境保全課

1

## 環境影響評価とは

### (1) 事業者が自ら主体となって行う手続

よりよい環境配慮を行うように、事業者による情報交流の手続を法や条例で定めている。

### (2) 事業実施の有無を決める制度ではない

許可や審査の基準ではなく、対象事業や手続等について定めている。

※ 事業の実施の可否は、許認可権者等により判断される。

### (3) 地域住民とのコミュニケーションツールの一つ

図書の縦覧及び説明会の開催等、事業者が自ら結果を公表し、地域住民、地方公共団体、専門家の意見を聴いて、よりよい環境配慮を行う。

2

# 今回の対象事業について

## 対象事業等

事業者	熊本県
事業名	長洲港土砂処分場整備事業
事業の種類	公有水面の埋立て(熊本県条例対象事業)
事業の規模	埋立区域の面積:約28ha
対象事業実施区域	熊本県玉名郡長洲町名石浜地先公有水面
関係地域	玉名市、荒尾市及び玉名郡長洲町

3

# 現地写真



R7.9 撮影



撮影位置

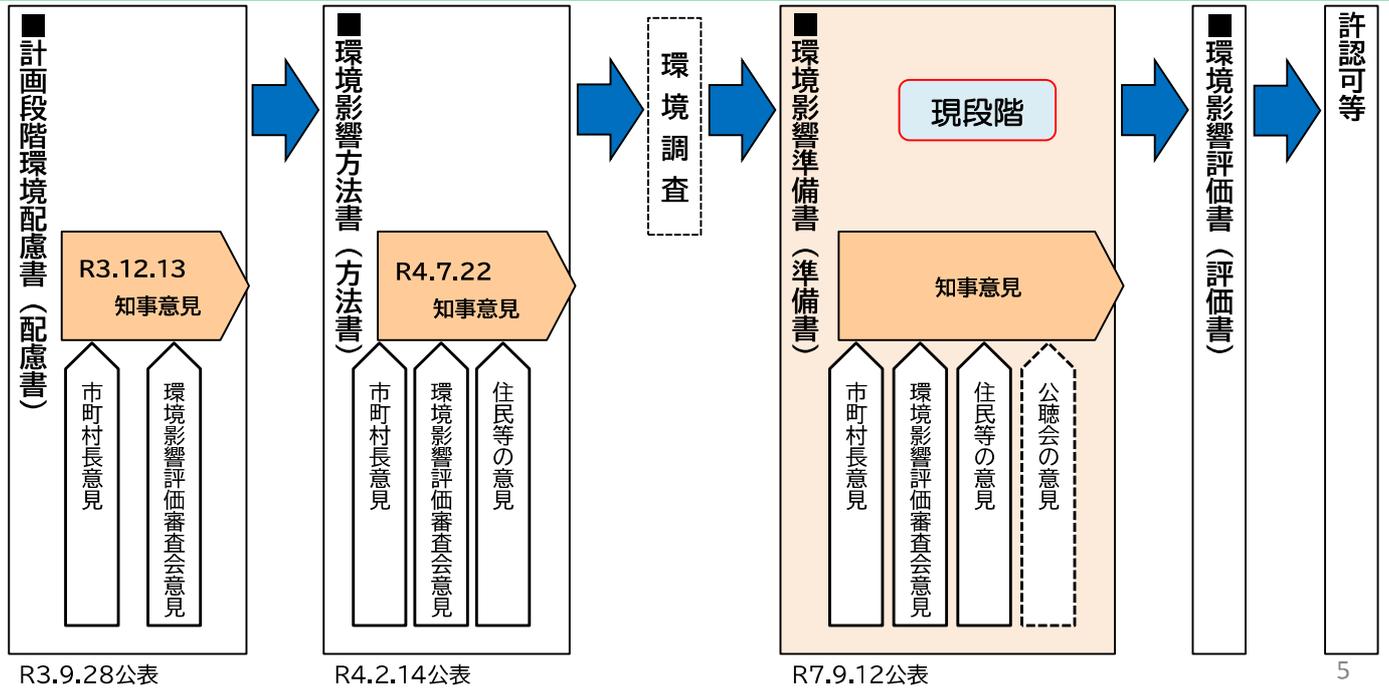


この地図は国土院の地図データを利用したものであります。

※ 準備書の図を一部改変

4

# 環境影響評価手続の流れ



# 環境影響評価手続の各手続

- 1 配慮書** （県条例第4条の2～第4条の6）  
計画の立案段階で環境保全のために配慮すべき事項を検討する段階
- 2 方法書** （県条例第5条～第10条）  
環境アセスメントの方法（調査内容や予測、評価の方法）を決める段階
- 3 準備書** （県条例第13条～第20条）  
方法書に基づき行った調査、予測、評価の結果を取りまとめる段階
- 4 評価書** （県条例第21条～第24条）  
準備書に対して出された住民等や知事の意見を踏まえて修正等を行い、最終的な図書としてまとめる段階

# 準備書手続について

準備書:方法書に基づき行った調査、予測、評価の結果を取りまとめる

## 主な記載事項

- 環境影響評価項目ごとの調査の結果
- 調査結果を受けての環境影響の予測及び評価の結果
- 予測及び評価の結果を受けての環境保全のための措置
- 方法書に対する県知事意見等とそれに対する事業者の見解

7

# 環境影響評価手続における知事意見

【準備書段階】

## 意見の機会

熊本県環境影響評価条例

配慮書(第4条の5)

方法書(第10条)

準備書(第20条)

それぞれの図書に対して  
知事が環境保全の見地から  
意見を述べることを規定

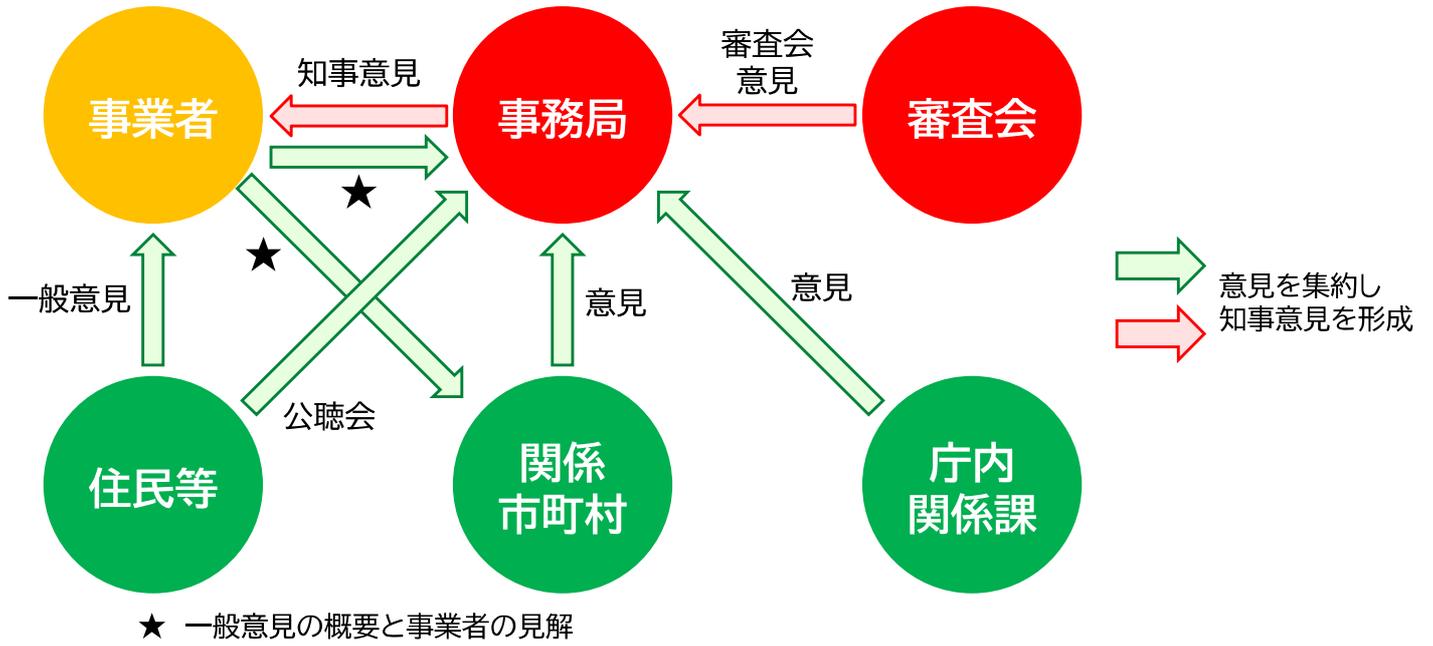
※ 評価書は環境アセスメントの最終的な図書であり、知事意見の規定はない。

※ 準備書は知事から事業者へ意見を述べる最後の機会となる。

8

# 環境影響評価手続における知事意見

【準備書段階】



長洲港土砂処分場整備事業に係る  
環境影響評価準備書  
熊本県環境影響評価審査会

令和7年11月28日(金)

熊本県

【次第】

長洲港土砂処分場整備事業について

1. 事業の目的及び必要性
2. 事業計画

環境影響評価準備書について

3. 環境影響評価項目の選定
4. 環境影響評価の結果
5. 事後調査の計画
6. 住民説明会の開催概要

## 【次第】

### 長洲港土砂処分場整備事業について

1. 事業の目的及び必要性
2. 事業計画

### 環境影響評価準備書について

3. 環境影響評価項目の選定
4. 環境影響評価の結果
5. 事後調査の計画
6. 住民説明会の開催概要

## 1. 事業の目的及び必要性



## 【背景】

- ・有明海の**港湾、漁港**は土砂堆積が著しく、**継続的な浚渫**が不可欠
- ・現在、浚渫土砂は**遠方に搬出**しており、**多額の費用**を要している
- ・土砂搬出先の**受入れ容量には限り**があり、**処分先の確保**が急務



**港湾及び漁港機能の継続的な維持のため、長洲港周辺において新たな土砂処分場整備を計画**

## 2. 事業計画

項目		概要
公有水面の埋立	対象事業 実施区域の位置	熊本県玉名郡長洲町名石浜地先公有水面 
	埋立区域の面積	約 28 ha
	埋立土量	約 240 万m <sup>3</sup>

【工事工程】

護岸工 【1期】令和8～11年度（埋立土量：約100万m<sup>3</sup>）  
 【2期】令和12～16年度（埋立土量：約140万m<sup>3</sup>）  
 1期の護岸工完了後に土砂処分を開始し、同時に2期の護岸工に着手。  
 埋立工 令和12～27年度の16年間程度を予定。

項目		年度(西暦)									
		R8 (2026)	R9 (2027)	R10 (2028)	R11 (2029)	R12 (2030)	R13 (2031)	R14 (2032)	R15 (2033)	R16 (2034)	R17 (2035)
護岸工	1期	■									
	2期					■					
埋立工						■					➔

【護岸工】

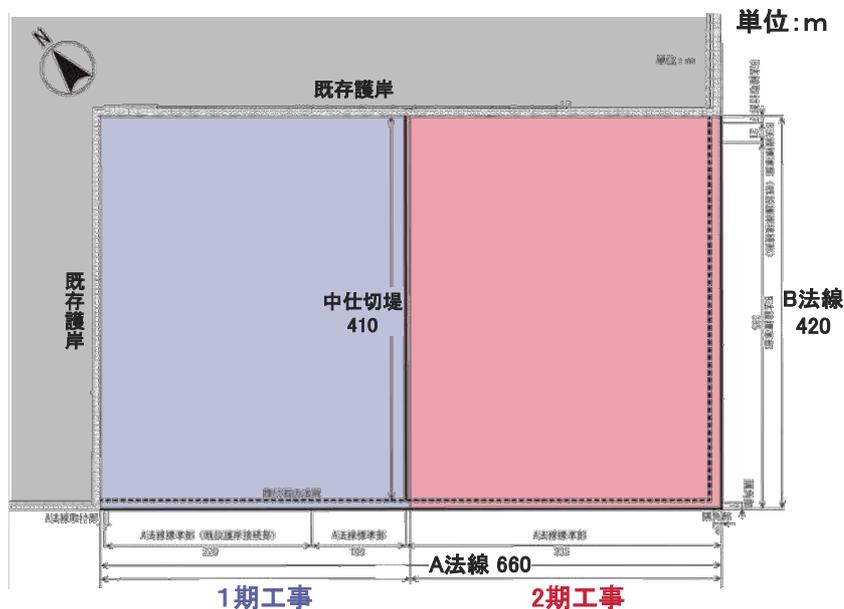


【護岸工】

主な構造・工法

・地盤改良  
 サンドコンパクション工法、置換工法により海底地盤を改良。

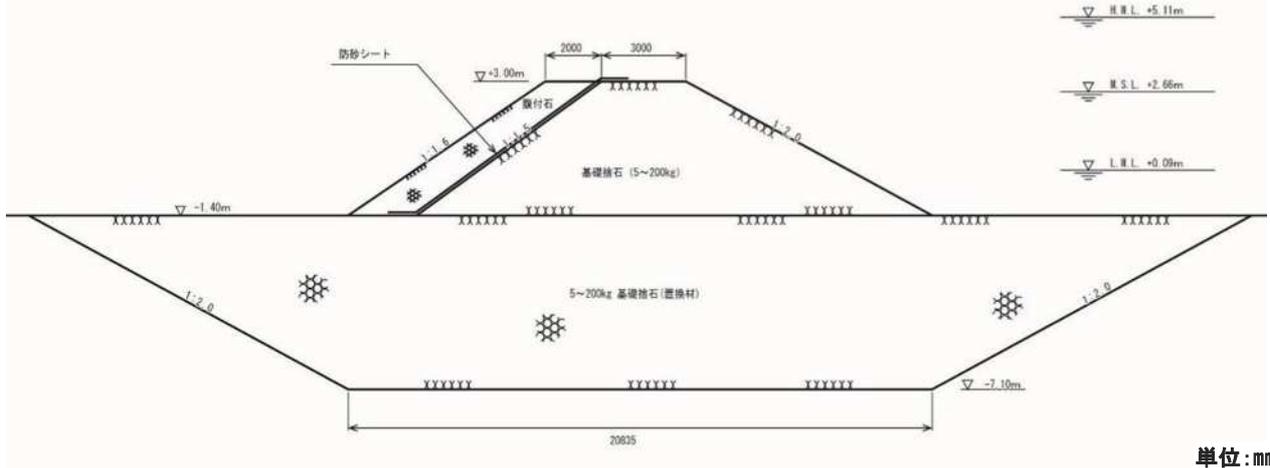
・護岸構造  
 区間ごとに方塊積式、L型ブロック式、ケーソン式を選定。  
 護岸A法線の間付近にA法線と垂直になるよう捨石式傾斜堤の中仕切堤を設置。





## 【護岸工】

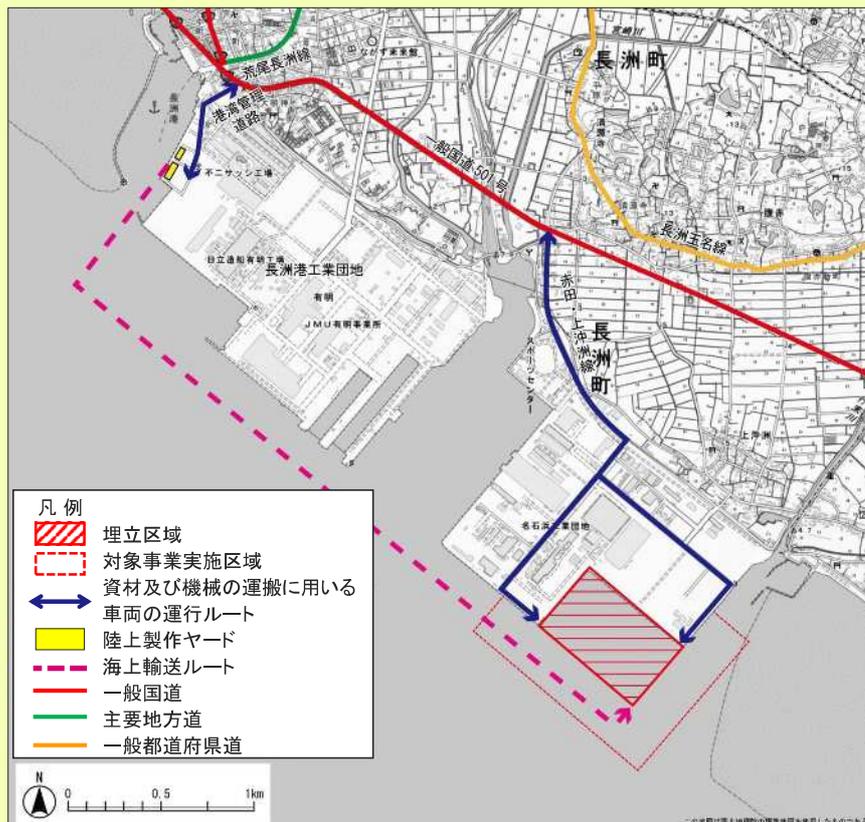
### 護岸構造図



中仕切堤

単位：mm

## 【護岸工】



この図面は地上地物の情報提供を目的としたものであり

## 【埋立工】

土運船を用いて浚渫土砂を埋立区域まで運搬。

【1期工事完了後～2期工事中】  
全開式の土運船による土砂の投入



【2期工事完了後】  
空気圧送船による土砂の投入



## 【主な建設機械及び工事用船舶】

工種・作業内容	名称	規格	工種・作業内容	名称	規格
ブロック製作	ラフテレーンクレーン	25t吊	置換材投入	ガット船	グラブ容量3.0m <sup>3</sup>
	コンクリートミキサー車	打設能力280m <sup>3</sup> /日		潜水土船	D270PS型 3～5t吊
	コンクリートポンプ車	10t	基礎捨石投入、均し	ガット船	グラブ容量3.0m <sup>3</sup>
ブロック撤去工	非航起重機船	旋回鋼D250t吊		潜水土船	D270PS型 3～5t吊
	引船	鋼D1,000PS型	L型ブロック、本体方塊等運搬・据付	非航起重機船	旋回鋼D600t吊 固定鋼DE700t吊
石材撤去工	ガット船	グラブ容量1.8m <sup>3</sup>		ガット船	グラブ容量3.0m <sup>3</sup>
	バックホウ	山積1.4m <sup>3</sup>		台船	鋼500t積
海上地盤改良工 (SCP工法)	SCP船	3連装 45m		引船	鋼D500PS型 鋼D3,000PS型
	ガットバージ	鋼D1,000m <sup>3</sup> 積		揚錨船	鋼D10t吊
	ガット船	グラブ容量3.0m <sup>3</sup>		潜水土船	D270PS型 3～5t吊
	土運船	鋼1,300m <sup>3</sup> 積		非航起重機船	旋回鋼D150t吊 旋回鋼D200t吊
	引船	鋼D1,500PS型			引船
	揚錨船	鋼D25t吊		根固工被覆工	潜水土船
潜水土船	D270PS型 3～5t吊	クローラークレーン			100t吊
床掘工	グラブ浚渫船	鋼D15m <sup>3</sup> 、スパッド式	ラフテレーンクレーン		50t吊
		鋼D23m <sup>3</sup> 、スパッド式			
		鋼D30m <sup>3</sup> 、スパッド式			
	土運船	鋼1,300m <sup>3</sup> 積			
引船	鋼D1,500PS型 鋼D2,000PS型				

## 【主な建設機械及び工事用船舶】

工種・作業内容	名称	規格
上部工	非航起重機船	旋回鋼D200t吊
	引船	鋼D800PS型
裏込材投入・防砂シート敷設	ガット船	グラブ容量3.0m <sup>3</sup>
	クレーン付台船	35～40t吊
	引船	鋼D300PS型
	潜水土船	D270PS型 3～5t吊
	バックホウ	山積0.8m <sup>3</sup>
	ダンプトラック	10t
胸壁工	非航起重機船	旋回鋼D600t吊
	引船	鋼D3,000PS型
	ラフテレーンクレーン	13t吊
	コンクリートミキサー車	打設能力280m <sup>3</sup> /日
	コンクリートポンプ車	10t
舗装工	振動ローラ	搭乗式コンパインド型3～4t
	コンクリート簡易仕上機	3.5～5.0m
埋立工	土運船	鋼600m <sup>3</sup> 積
	空気圧送船	2,000PS型
	押船	1,300PS型

## 【主な環境配慮事項】

## 大気質

- ・工事用車両や建設機械等は、低公害型の使用に努めます。

## 騒音・振動

- ・建設機械等は、低騒音・低振動型の使用に努めます。

## 水質

- ・護岸工の際は、汚濁防止膜等を設置し、濁水の拡散防止に努めます。
- ・埋立工の際は、護岸部に防砂シートを施工し、濁水の拡散防止に努めます。

## 【次第】

### 長洲港土砂処分場整備事業について

1. 事業の目的及び必要性
2. 事業計画

### 環境影響評価準備書について

3. 環境影響評価項目の選定
4. 環境影響評価の結果
5. 事後調査の計画
6. 住民説明会の開催概要

## 3. 環境影響評価項目の選定

環境要素の区分		影響要因の区分		工事中		土地又は 工作物の存在
				護岸の工事	埋立の工事	埋立地の存在
大気環境	大気質	窒素酸化物		●		
		粉じん等		●		
	騒音 振動			●		
水環境	水象	流向及び流速				●
	水質	水の汚れ				●
		水の濁り		●		
		水底の底質				●
地形及び地質		重要な地形及び地質				●
動物		重要な種及び群集並びに 注目すべき生息域 (海域に生息するものを除く。)		●		●
		海域に生息する動物		●		●
植物		海域に生育する植物		●		●
生態系		地域を特徴づける生態系		●		●
景観		主要な眺望点及び景観資源 並びに主要な眺望景観				●
人と自然との 触れ合いの 活動の場		主要な人と自然との 触れ合いの活動の場		●		●
廃棄物等		建設工事に伴う副産物	●			

## 4. 環境影響評価の結果

## 調査結果



### 二酸化窒素

2地点とも、夏季・冬季ともに、環境基準(0.04ppmから0.06ppmまでのゾーン内又はそれ以下)を達成していました。

### 粉じん等

2地点とも、夏季・冬季ともに、指針値(20t/km<sup>2</sup>/月)を下回っていました。

### 気象

- ・最多風向 夏季：南及び西北西  
冬季：東北東
- ・期間平均風速 2.3~2.4m/s

## 予測・評価結果

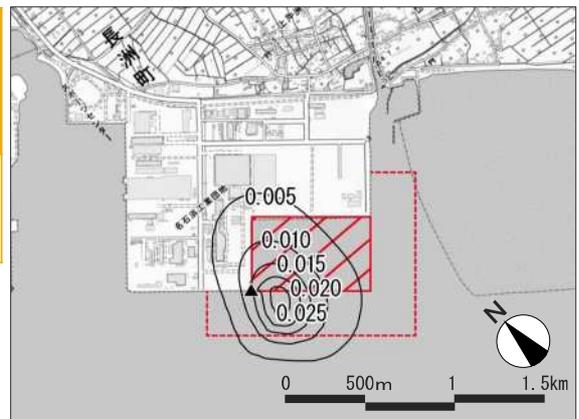
### 護岸の工事、埋立の工事

### 建設機械及び工事用船舶の稼働

・二酸化窒素(単位:ppm)

予測地点	バックグラウンド濃度	将来濃度		基準又は目標
		期間平均値	日平均値の期間98%値	
最大着地濃度地点 ▲	0.0032	0.0186	0.0320	0.04~ 0.06以下

整合を図るべき基準又は目標を下回るものと予測されます。



・粉じん等

粉じんが飛散する可能性のある気象条件(風速5.5m/s以上)の月間出現頻度は3.0~3.7%となっています。また、最寄りの住居に対し、南~西の風向における出現頻度は0.3~2.7%であることから、影響は小さいと予測されます。

## 予測・評価結果

### 護岸の工事、埋立の工事 資材及び機械の運搬に用いる車両の運行

・二酸化窒素(単位:ppm)



整合を図るべき基準又は目標を下回るものと予測されます。

## 予測・評価結果

### 護岸の工事、埋立の工事 資材及び機械の運搬に用いる車両の運行

・粉じん等(単位:t/km<sup>2</sup>/月)



整合を図るべき基準又は目標を下回るものと予測されます。

## 環境保全措置

### 【建設機械及び工船用船舶の稼働】

- ・排出ガス対策型建設機械の採用に努める。
- ・工事箇所や工事量が過度に集中しないように工程管理を行う。
- ・粉じん等が発生する作業にあたっては、強風時の作業を控える等作業時間に配慮する。

など

### 【資材及び機械の運搬に用いる車両の運行】

- ・資材の搬出入は、できるだけ海上輸送とするように努める。
- ・土曜、日曜及び祝日の資材及び機械の運搬に用いる車両の通行を極力控える工程に努める。
- ・アイドリングストップ等のエコドライブの徹底について指導を行う。
- ・タイヤ洗浄装置等を用いて洗車を行う。
- ・資材及び機械の運搬に用いる車両の過度な集中を避けた工事計画を立案することにより、車両の走行台数に極端なピークが生じないように指導を行う。

など

## 調査結果

St.3 道路沿道

		調査結果	基準等
騒音	昼間	57	65
	夜間	51	60
振動	昼間	40	70
	夜間	33	65

St.2 道路沿道

		調査結果	基準等
騒音	昼間	65	70
	夜間	58	65
振動	昼間	43	70
	夜間	31	65

St.1 対象事業実施区域周辺

		調査結果	基準等
騒音	昼間	49	60
	夜間	52	50
振動	昼間	26	—
	夜間	25未満	—

### 騒音、振動

St.1において、夜間に騒音の環境基準を超過していましたが、他の地点・項目ではすべて基準等を下回っていました。



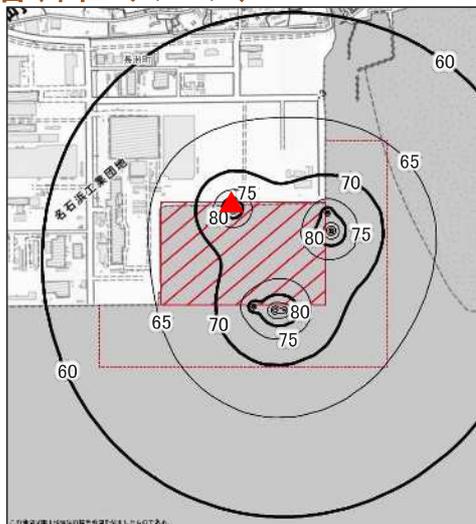
# 28/72 4-2 騒音・振動

準備書：p. 7-77 (411), 7-78 (412),  
p. 7-104 (438), 7-105 (439)

## 予測・評価結果

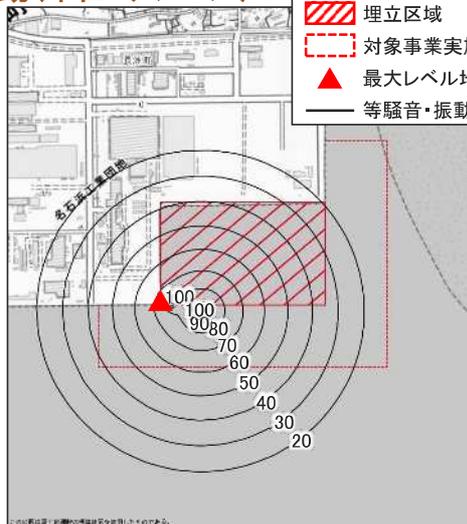
### 護岸の工事、埋立の工事 建設機械及び工事用船舶の稼働

・騒音(単位:デシベル)



騒音	予測結果	基準又は目標
敷地境界における最大レベル地点▲	83	85以下

・振動(単位:デシベル)



振動	予測結果	基準又は目標
敷地境界における最大レベル地点▲	74	75以下

- 凡例
- 埋立区域
  - 対象事業実施区域
  - 最大レベル地点
  - 等騒音・振動レベル線

整合を図るべき基準又は目標を下回るものと予測されます。

# 29/72 4-2 騒音・振動

準備書：p. 7-190 (424),  
p. 7-117 (451)

## 予測・評価結果

### 護岸の工事、埋立の工事 資材及び機械の運搬に用いる車両の運行

・騒音、振動(単位:デシベル)



	地点1	予測結果	増加分	基準又は目標
騒音	東側	65	0.4	70以下
	西側	65	0.4	
振動	東側	48	0.9	70以下
	西側	48	0.8	

	地点2	予測結果	増加分	基準又は目標
騒音	南側	59	2.0	65以下
	北側	59	1.9	
振動	南側	49	4.9	70以下
	北側	49	4.9	

- 凡例
- 埋立区域
  - 対象事業実施区域
  - 一般国道
  - 主要地方道
  - 一般都道府県道
  - 陸上製作ヤード
  - 資材及び機械の運搬に用いる車両の運行ルート
  - 予測地点

整合を図るべき基準又は目標を下回るものと予測されます。

## 環境保全措置

### 【建設機械及び工事用船舶の稼働】

- ・低騒音型・低振動型建設機械の採用に努める。
- ・建設機械や工事用船舶に過剰な負荷をかけないように指導を行う。
- ・工事箇所や工事量が過度に集中しないように工程管理を行う。

### 【資材及び機械の運搬に用いる車両の運行】

- ・資材の搬出入は、できるだけ海上輸送とするように努める。
- ・土曜、日曜及び祝日の資材及び機械の運搬に用いる車両の通行を極力控える工程に努める。
- ・アイドリングストップ等のエコドライブの徹底について指導を行う。
- ・資材及び機械の運搬に用いる車両の過度な集中を避けた工事計画を立案することにより、車両の走行台数に極端なピークが生じないように指導を行う。

## 調査結果

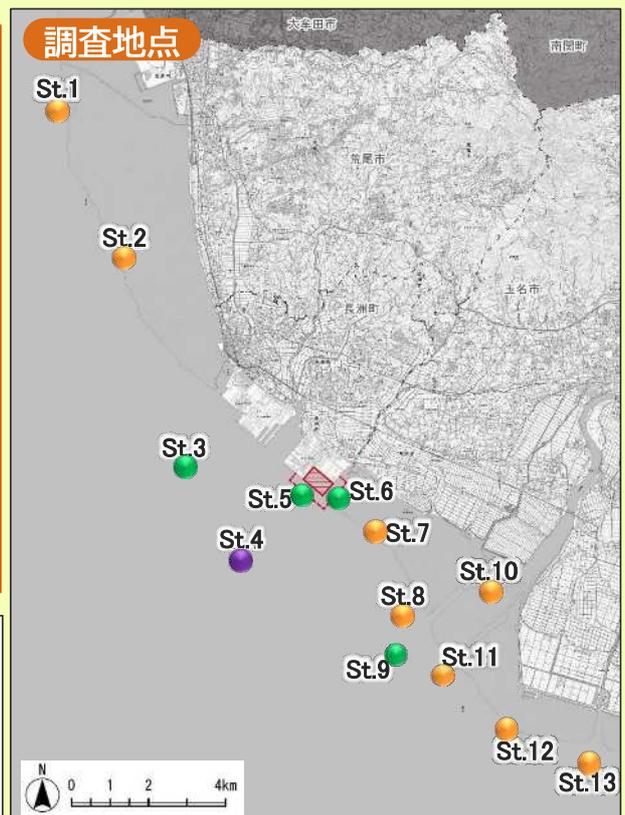
### 流向・流速頻度分布

- ・流向：概ね海岸線に沿った北西方向・南東方向が卓越。
- ・流速：0~30cm/sが卓越。

### 平均大潮期の流況

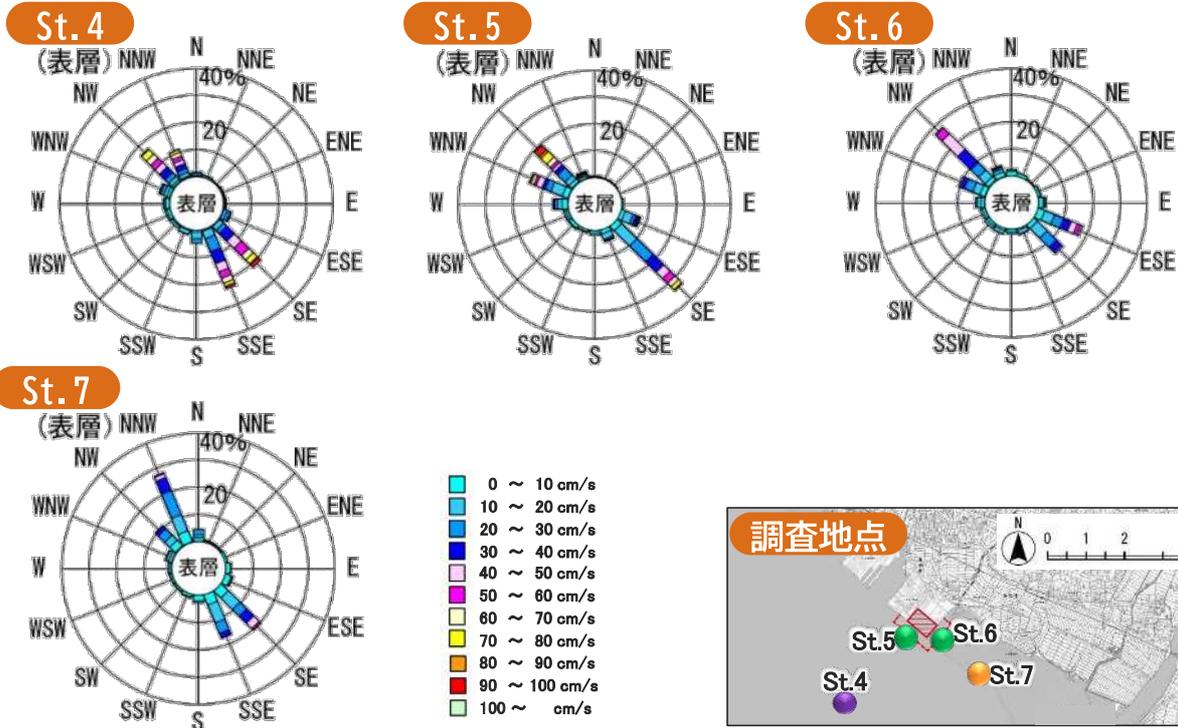
- ・流れの向き  
 上げ潮最強時：北西向き  
 下げ潮最強時：南東向き
- ・流速（埋立地周辺）  
 沖側のSt. 4やSt. 5と比較して、海岸線に近いSt. 6は遅い傾向。

凡例	
	埋立区域
	対象事業実施区域
	流向・流速に係る調査地点（表層・中層・底層）
	流向・流速に係る調査地点（表層・底層）
	流向・流速に係る調査地点（表層）



調査結果

流向・流速頻度分布図（夏季 表層）



予測・評価結果

埋立地の存在

埋立地の存在により、主に東側の海域において流速が増加または減少する範囲が広がっています。ただし、文献に基づく流速変化の影響範囲※については、埋立区域の近傍に限られるものと予測します。

※現況の流速から20%を超える変化を示す範囲。本予測では±10cm/s超の変化範囲を指す。

流速差図（事業ありー事業なし）

単位：cm/s

夏季 上げ潮最強時 表層(0~3m)



流速が埋立地の東側で減少、西側で増加

夏季 下げ潮最強時 表層(0~3m)



流速が埋立地の東側で減少又は増加

- 凡例
- 埋立区域
  - 流速の増加
  - 流速の減少

## 予測・評価結果

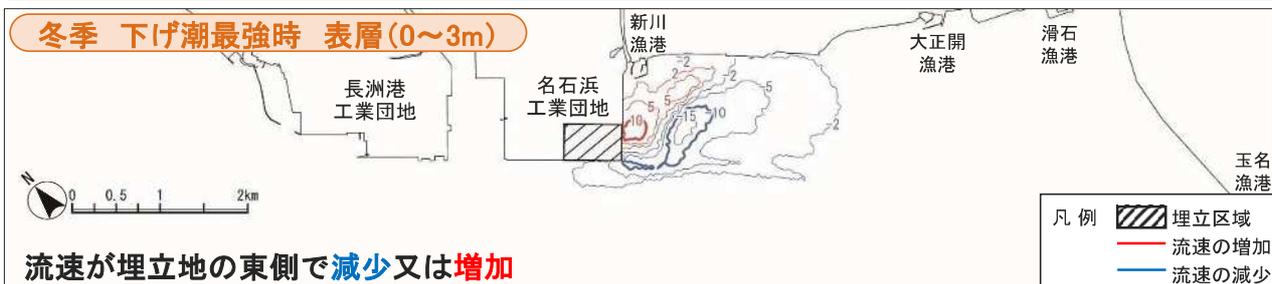
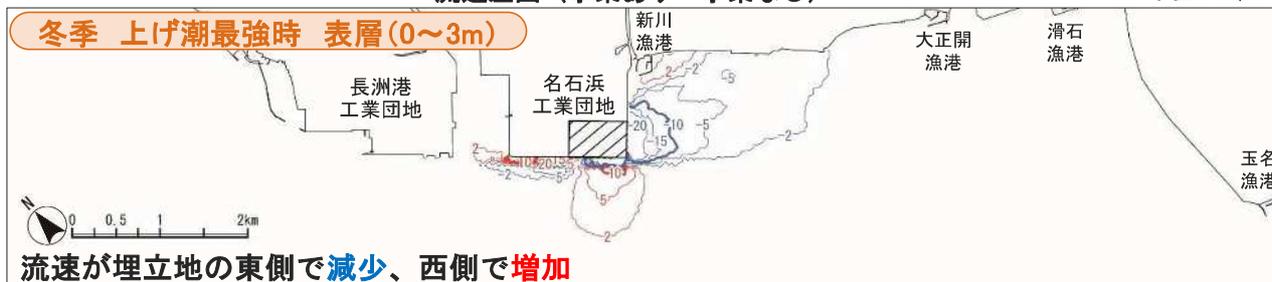
## 埋立地の存在

埋立地の存在により、主に東側の海域において流速が増加または減少する範囲が広がっています。ただし、文献に基づく流速変化の影響範囲※については、埋立区域の近傍に限られるものと予測します。

※現況の流速から20%を超える変化を示す範囲。本予測では±10cm/s超の変化範囲を指す。

流速差図（事業ありー事業なし）

単位：cm/s



## 環境保全措置

影響範囲が限られるため、実施しない計画です。

## 調査結果

### 調査地点



### 水質

- 以下の項目について、一部の地点や季節で環境基準を達成していない値が見られました。  
水素イオン濃度 (pH)  
化学的酸素要求量 (COD)  
溶存酸素量 (DO)  
全燐 (T-P)  
全亜鉛
- その他の項目では、環境基準を達成していました。

### 水底の底質（粒度組成）

埋立区域近傍の水深10m以浅の底質は、南西側・北西側はシルト・粘土分が、南東側は砂分が多くなっています。

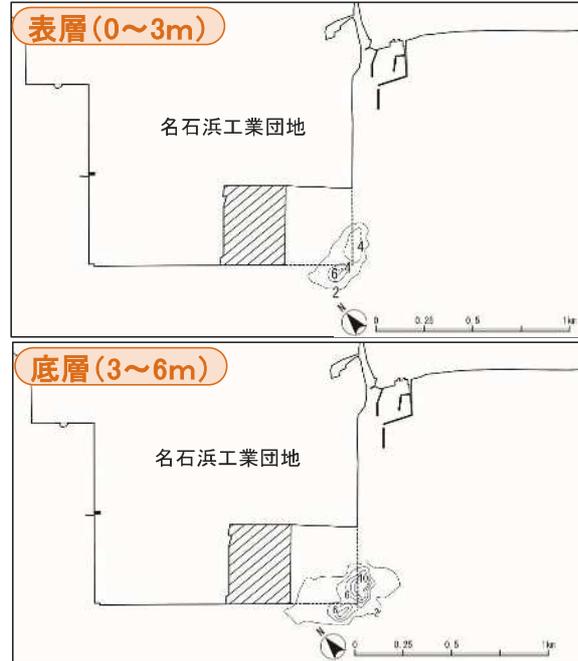
注) その他の栄養塩類に係る調査はSt.1~7で実施した。

## 予測・評価結果

### 護岸の工事、埋立の工事

#### ・水の濁り

単位：mg/L



工事で発生するSS濃度の基準値を超過する範囲は、埋立地近傍に限られることから、水質への影響は限定的であると予測します。

✓ 基準又は目標

SS濃度 2mg/Lの拡散の範囲をできる限り抑える

凡例  
 埋立区域(予測時期)  
 埋立区域

工事で発生するSSの濃度分布図

## 予測・評価結果

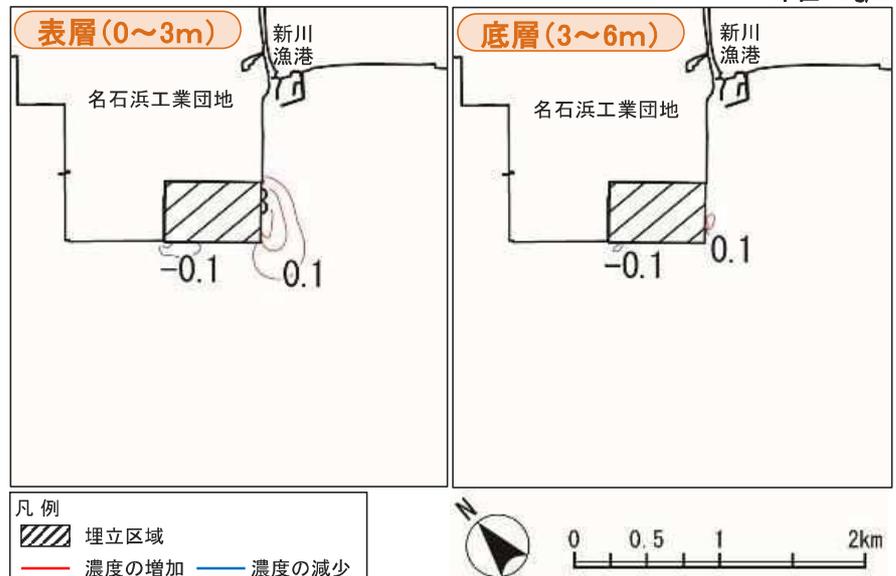
### 埋立地の存在

#### ・水の汚れ：対象事業実施区域の周辺海域

事業ありと事業なしの濃度分布の差は小さく、変化する範囲も埋立区域の近傍に限られるため、影響は限定的であると予測されます。

CODの濃度差図（事業あり-事業なし） 夏季

単位：mg/L



凡例  
 埋立区域  
 濃度の増加 濃度の減少

## 予測・評価結果

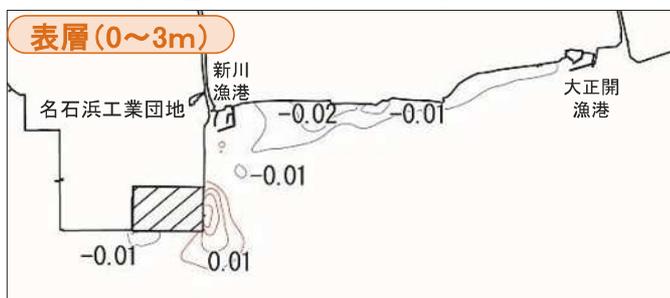
### 埋立地の存在

・水の汚れ：対象事業実施区域の周辺海域

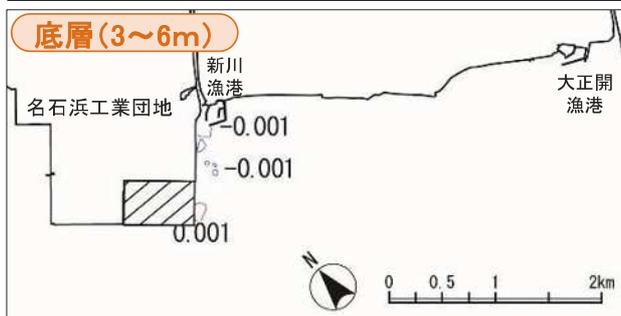
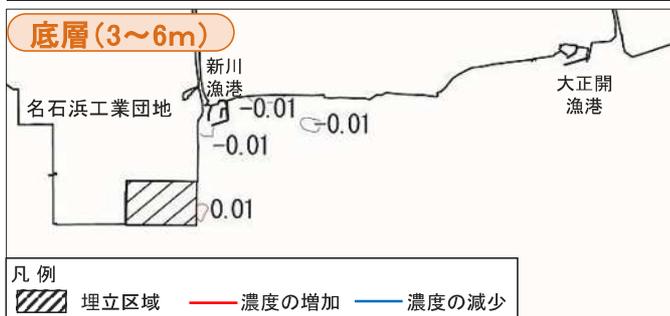
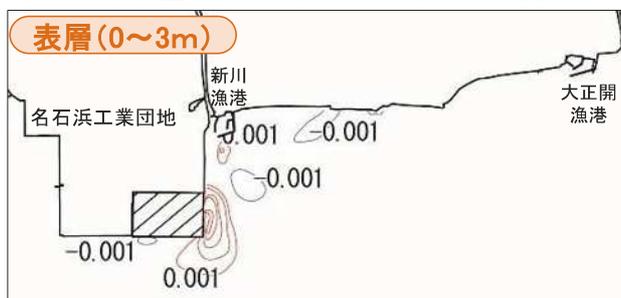
事業ありと事業なしの濃度分布の差は小さく、変化する範囲も埋立区域の近傍に限られるため、影響は限定的であると予測されます。

単位：mg/L

T-Nの濃度差図（事業あり-事業なし） 夏季

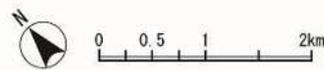


T-Pの濃度差図（事業あり-事業なし） 夏季



凡例  

 埋立区域    濃度の増加    濃度の減少



## 予測・評価結果

### 埋立地の存在

・水の汚れ：予測地点（公共用水域調査地点）

濃度変化は、予測地点においてほとんどないと予測されます。基準を満足していない予測地点もみられますが、本事業の実施により、適合状況を変化させるものではないと予測されます。

COD75%値(表層)

単位：mg/L

地点	類型	予測結果(計算値)			濃度差 <sup>注1)</sup> ③-②	基準又は目標
		①現況	②将来(事業なし)	③将来(事業あり)		
St-1	A	2.3	2.3	2.3	0.0	2.0以下
St-2	A	2.4	2.4	2.4	0.0	
St-4	B	2.6	2.6	2.6	0.0	3.0以下
St-5	A	2.3	2.3	2.3	0.0	2.0以下
St-6	B	3.7	3.7	3.7	0.0	3.0以下
St-7	A	2.6	2.6	2.6	0.0	2.0以下
St-8	B	3.5	3.5	3.5	0.0	3.0以下
St-9	A	2.6	2.6	2.6	0.0	2.0以下
K-11	A	1.8	1.8	1.8	0.0	
K-12	A	2.0	2.0	2.0	0.0	
K-15	A	2.1	2.1	2.1	0.0	
K-17	A	2.4	2.4	2.4	0.0	
K-20	A	2.0	2.0	2.0	0.0	

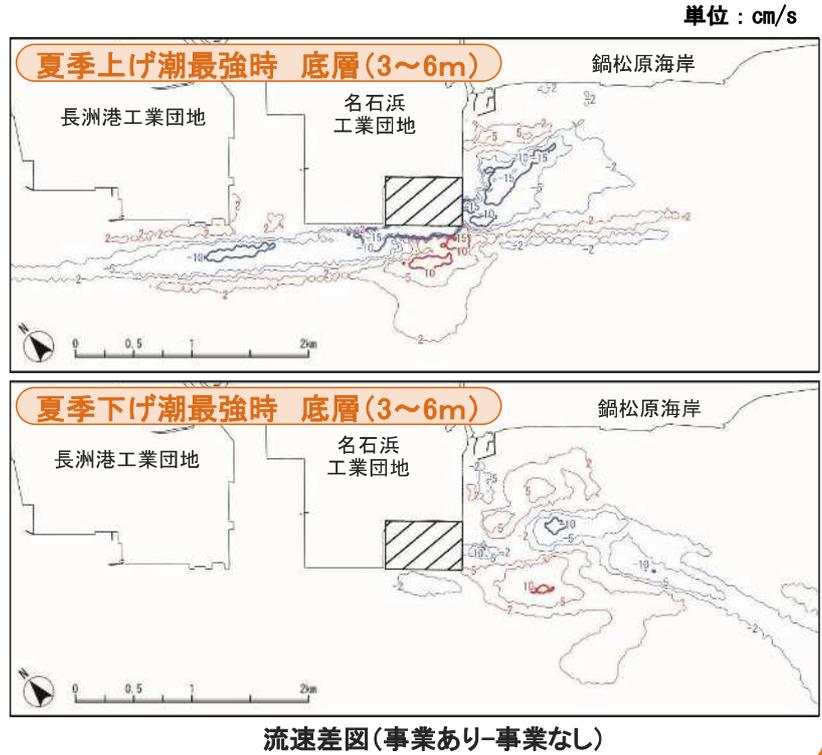
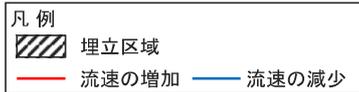
注1) 表中の数値は表章単位未満の位で四捨五入しているため、濃度差と内訳の差分は必ずしも一致しない。  
 注2) グレー 基準不適合

## 予測・評価結果

### 埋立地の存在

#### ・水底の底質

「水象」の予測の結果と同様に、潮流によって生じる水底の底質の変化も埋立区域の限定的な範囲であると予測されます。

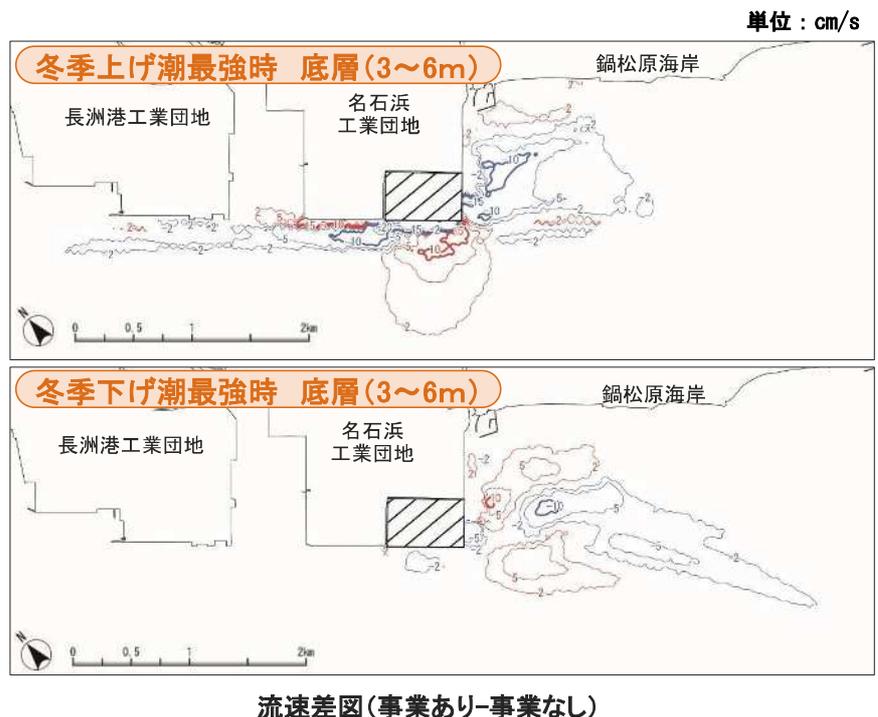
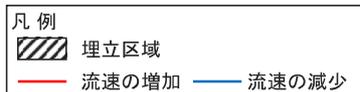


## 予測・評価結果

### 埋立地の存在

#### ・水底の底質

「水象」の予測の結果と同様に、潮流によって生じる水底の底質の変化も埋立区域の限定的な範囲であると予測されます。



## 環境保全措置

## 【護岸の工事、埋立の工事(水の濁り)】

- ・濁りの発生する工種の重複をできるだけ避けるように工程管理に努める。
- ・付着土砂が少ない投入石材を使用する。

## 【埋立地の存在(水の汚れ、水底の底質)】

- ・影響が限定的であるため、実施しない計画です。

## 環境監視調査

- ・工事中や工事完了後の環境の状況の把握や環境保全のため、水質及び水底の底質の環境監視調査を実施します。

## 調査結果



## 砂浜、自然海岸

- ・東側の海岸には砂浜や自然海岸が分布。(鍋松原海岸は人工ビーチ)
- ・干潮時には沖方向に干潟が分布。

## 干潟

- ・空中ドローンにより調査した結果、干潟の面積は約850haと算定されました。

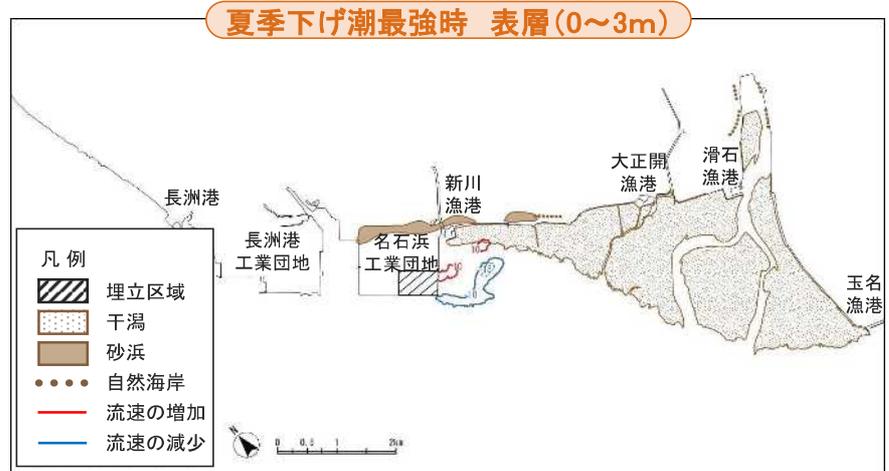
## 予測・評価結果

### 埋立地の存在

#### ・重要な地形及び地質

流速変化の影響範囲と干潟が重複する面積：  
0.58ha  
(干潟の面積の0.07%)

⇒重要な地形及び地質への影響は限定的であると予測されます。



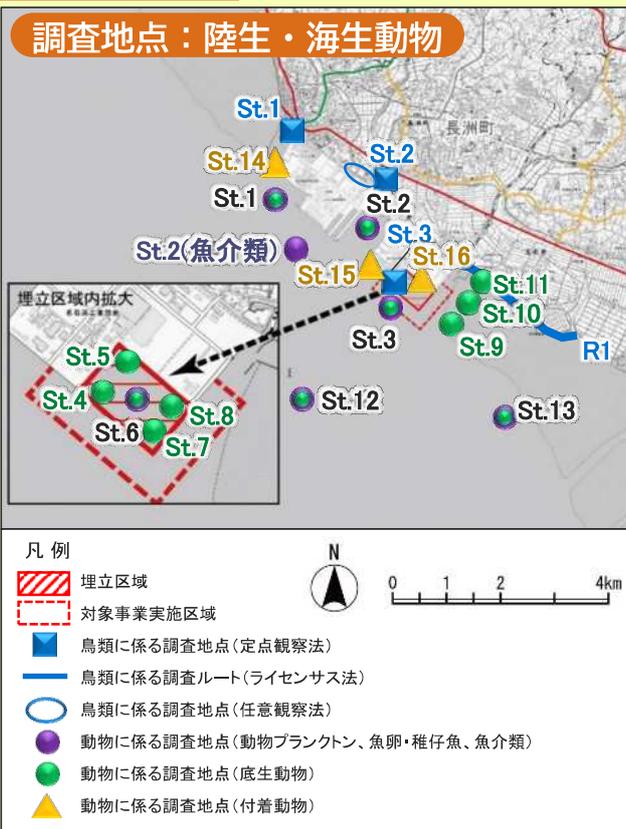
※夏季の上げ潮最強時、冬季の上げ潮最強時・下げ潮最強時は、流速変化の影響範囲と干潟の重複はない。

### 環境保全措置

影響が限定的であるため、実施しない計画です。

## 調査結果

### 調査地点：陸生・海生動物



### 現地調査による確認種類数

区分	調査内容	確認種類数
陸生動物	鳥類	13目 38科115種
	動物プランクトン	10目 24科 63種
海生動物	底生動物	40目107科180種
	付着動物	38目 70科123種
	魚卵	4目 6科 12種 (不明卵含む)
	稚仔魚	7目 17科 21種
	魚介類	15目 41科 61種

### 重要な種 (既存資料調査・現地調査)

- ・鳥類：14目35科85種
- ・海生動物：28目72科117種

調査結果

重要な種（鳥類）



ツクシガモ



シロチドリ



オオソリハシシギ



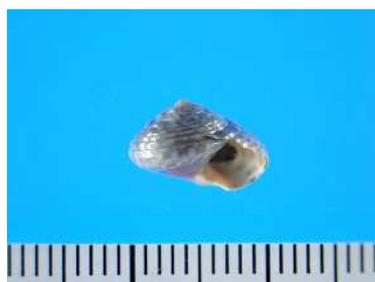
コアジサシ



クロツラヘラサギ

調査結果

重要な種（底生動物）



キサゴ



マルテンスマツムシ



ウミタケ



テナガツノヤドカリ



ヒシガニ



オオシャミセンガイ

調査結果

重要な種（付着動物）



オガイ

重要な種（魚介類）



スミツキザメ



ヤジリエイ

重要な種（哺乳類）



スナメリ



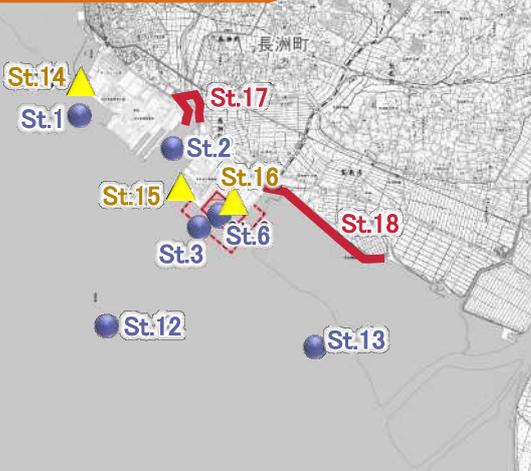
エツ



コウライアカシタビラメ

調査結果

調査地点：海生植物



凡例

- 埋立区域
- 対象事業実施区域
- 植物に係る調査地点（植物プランクトン）
- 植物に係る調査地点（付着植物）
- 植物に係る調査地点（海岸植物等）

現地調査による確認種類数

区分	調査内容	確認種類数
海生植物	植物プランクトン	18目 36科169種
	付着植物	17目 24科 40種
	海岸植物等	34目 68科238種

重要な種（既存資料調査・現地調査）

・海生植物：5目6科7種

調査結果

重要な種（植物）



ナガミノオニシバ



ミソコウジュ



ハマゴウ

予測・評価結果

護岸の工事、埋立の工事、埋立地の存在

・鳥類

鳥類全般

調査で確認された重要な種 22種（ツクシガモ、コアジサシなど）

影響要素		予測結果
護岸の工事・埋立の工事	直接的影響	生息場所の改変
	間接的影響	騒音
		水の濁り
埋立地の存在	直接的影響	生息場所の改変
	間接的影響	潮流の変化
		水の汚れの変化
	水底の底質の変化	

騒音、水質、流速変化などの影響の生じる範囲は埋立区域近傍の限定的であること、周辺には同様の環境が広く連続的に存在することから、影響は小さいと予測されます。

## 予測・評価結果

### 護岸の工事、埋立の工事、埋立地の存在

#### ・海生生物：

動物プランクトン、底生・付着動物、魚類、哺乳類全般

調査で確認された重要な種 底生・付着動物：18種(キサゴ、オオシャミセンガイなど)

魚類：11種(スミツキザメ、アカハゼなど)

哺乳類：1種(スナメリ)

影響要素			予測結果
護岸の工事・埋立の工事	直接的影響	生息場所の改変	水質、流速変化などの影響の生じる範囲は埋立区域近傍の限定的な範囲であること、周辺には同様の環境が広く連続的に存在することから、影響は小さいと予測されます。 ただし、オオシャミセンガイについては、希少性がとりわけ高く、個体群の規模と生息基盤が脆弱である可能性があるため、環境保全措置として移植を行い、事後調査で移植後の生息状況の確認を行います。
	間接的影響	水の濁り	
埋立地の存在	直接的影響	生息場所の改変	
	間接的影響	潮流の変化	
		水の汚れの変化	
		水底の底質の変化	

## 予測・評価結果

### 護岸の工事、埋立の工事、埋立地の存在

#### ・海生植物、海岸植物等

植物プランクトン、付着植物、海岸植物等全般

調査で確認された重要な種 5種(ナガミノオニシバなど)

影響要素			予測結果
護岸の工事・埋立の工事	直接的影響	生育場所の改変	陸域の改変はなく、海域についても生育場所である干潟や砂浜の改変はありません。 また、水質や流速変化などの影響の生じる範囲は埋立区域近傍の限定的な範囲であること、周辺には同様の環境が広く連続的に存在することから、影響は小さいと予測されます。
	間接的影響	水の濁り	
埋立地の存在	直接的影響	生育場所の改変	
	間接的影響	潮流の変化	
		水の汚れの変化	

## 予測・評価結果

### 護岸の工事、埋立の工事、埋立地の存在

#### ・生態系

上位性：ミサゴ、コアジサシ、スズキ、スナメリ

典型性：カタクチイワシ、ヒメハゼ、マガキ、アサリ、ゴカイ類

影響要素		予測結果
護岸の工事・埋立の工事	直接的影響	生息場所の改変
	間接的影響	騒音
		水の濁り
埋立地の存在	直接的影響	生息場所の改変
	間接的影響	潮流の変化
		水の汚れの変化
		水底の底質の変化

陸域の改変はなく、海域についても生育場所である干潟や砂浜の改変はありません。

また、水質や流速変化などの影響の生じる範囲は埋立区域近傍の限定的な範囲であること、周辺には同様の環境が広く連続的に存在することから、影響は小さいと予測されます。

## 環境保全措置

### 【護岸の工事、埋立の工事】

- ・建設機械や工船用船舶に過剰な負荷をかけないように指導を行う。
- ・濁りの発生する工種の重複をできるだけ避けるように工程管理に努める。
- ・付着土砂が少ない投入石材を使用する。 など

### 【護岸の工事、埋立の工事、埋立地の存在】

- ・オオシャミセンガイ:埋立区域内で確認された個体を対象事業実施区域外に移植する。

## 事後調査

- ・移植を行うこととしたオオシャミセンガイについて、移植に関する知見や事例が少なく、効果に不確実性があることから、移植後の生息状況について、事後調査を実施します。

## 環境監視調査

- ・工事中や工事完了後の環境の状況の把握や環境保全のために、動物・植物・生態系（鳥類、動植物プランクトン、底生動物）の環境監視調査を実施します。

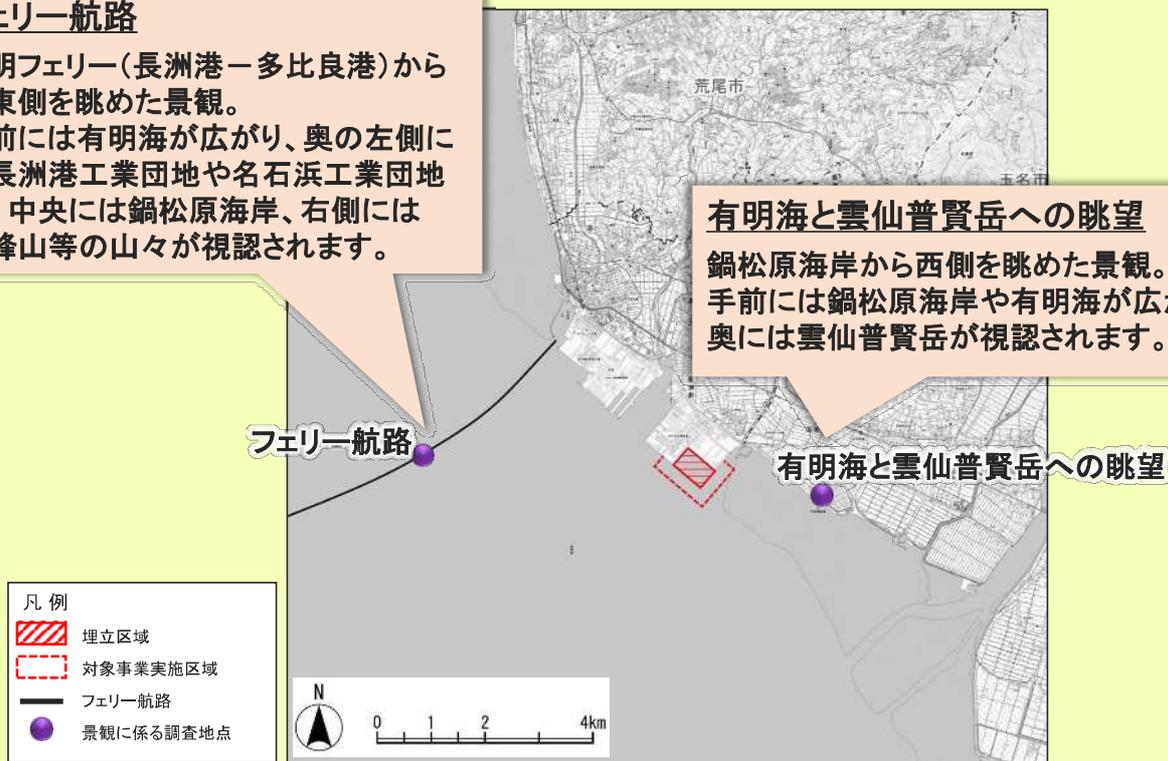
## 調査結果

### フェリー航路

有明フェリー(長洲港-多比良港)から南東側を眺めた景観。  
手前には有明海が広がり、奥の左側には長洲港工業団地や名石浜工業団地が、中央には鍋松原海岸、右側には金峰山等の山々が視認されます。

### 有明海と雲仙普賢岳への眺望

鍋松原海岸から西側を眺めた景観。  
手前には鍋松原海岸や有明海が広がり、奥には雲仙普賢岳が視認されます。



## 予測・評価結果

### 埋立地の存在

### 有明海と雲仙普賢岳への眺望



水平線や連続する既存護岸と一体となり、眺望への影響は小さいと予測されます。

## 予測・評価結果

## 埋立地の存在

## フェリー航路

現況



隣接する名石浜工業団地や鍋松原海岸と一体となって視認されることから、眺望への影響は小さいと予測されます。

## 環境保全措置

## 【埋立地の存在】

- ・整備する護岸等は、周辺景観と調和するよう周辺の既存護岸や海面の高さ、意匠等について配慮する。
- ・防砂シート等を敷設する場合には、素材、色彩等が周辺景観と調和するものを採用するよう努める。

## 調査結果



### 鍋松原海岸

令和4年度以降、海水浴場は開設されていないが、砂遊びや水遊びでの利用、砂浜でのイベントやキャンプ利用が可能。



### 干潟

地引網イベント等が開催される。潮干狩りを楽しむこともできるが、ここ数年は開設されていない。



### カラダ目覚めるコース

長洲町にて整備された7kmのウォーキングコース。スタートとゴールは、金魚の館内に設置されたゲートとなっている。



## 予測・評価結果

### 護岸の工事、埋立の工事

#### ・改変に係る影響

工事の実施に伴う改変はなく、影響はないと予測されます。

#### ・騒音による影響

建設機械等の稼働：騒音規制法の基準 85デシベル以下を達成

工事用車両の運行：現況からの増加は、0.6~1.4デシベルとごくわずか

⇒以上のことから、影響は小さいと予測されます。

#### ・水の濁りによる影響

浮遊物質質量(SS)2mg/Lを超過する範囲は概ね埋立区域内に収まることから、水質への影響は限定的。

⇒鍋松原海岸及び干潟の利用への影響は小さいと予測されます。

## 予測・評価結果

## 埋立地の存在

## ・改変に係る影響

埋立地の存在に伴う改変はなく、影響はないと予測されます。

## ・水の汚れ、水底の底質の変化による影響

水の汚れ：事業あり・事業なしによる濃度分布の差は小さく、環境基準の適合状況も現況から変化なし。

水底の底質：潮流の変化による水底の底質（粒度組成）の変化は小さい。

⇒以上のことから、影響は小さいと予測されます。

## ・重要な地形・地質の変化による影響

流速変化の影響範囲は概ね埋立地の周辺に限られており、影響範囲と干潟が重複する面積は0.58ha(0.07%)程度となっていることから影響は限定的。

⇒鍋松原海岸及び干潟の利用への影響は小さいと予測されます。

## 環境保全措置

## 【護岸の工事、埋立の工事】

- ・低騒音型・低振動型建設機械の採用に努める。
- ・工事箇所や工事量が過度に集中しないように工程管理を行う。
- ・資材の搬出入は、できるだけ海上輸送とするように努める。
- ・土曜、日曜及び祝日の資材及び機械の運搬に用いる車両の通行を極力控える工程に努める。
- ・アイドリングストップ等のエコドライブの徹底について指導を行う。
- ・濁りの発生する工種の重複をできるだけ避けるように工程管理に努める。
- ・付着土砂が少ない投入石材を使用する。

## 【埋立地の存在】

- ・影響が小さいため、実施しない計画です。

## 予測・評価結果

## 護岸の工事

建設副産物	発生量	再利用量	搬出量	処理・処分方法
建設汚泥	約353,900 m <sup>3</sup>	—	約353,900 m <sup>3</sup>	県内の土砂処分場で埋立処分します。
石材	約240 m <sup>3</sup>	約240 m <sup>3</sup>	—	再資源施設等で分別を行い、再資源化可能な建設副産物として
コンクリート殻	約55 m <sup>3</sup>	約55 m <sup>3</sup>	—	100%の再資源化に努めます。

護岸の工事に伴う建設副産物の影響は小さいと予測されます。

## 環境保全措置

## 【護岸の工事】

- ・建設副産物は発生抑制、分別を徹底し、再資源化に努める。
- ・廃棄物の適正な取り扱い等について、関係者に周知徹底するとともに、廃棄物の内容や処理方法を把握し、計画通りに処理されているかを確認する。
- ・一般廃棄物については、排出抑制及び有効利用に努め、分別排出を徹底するとともに、適正に処理する。

## 5. 事後調査の計画

### 67/72 5-1 事後調査の計画

準備書：p. 9-1 (935)

#### 事後調査

予測結果や環境保全措置の効果に不確実性があることから実施。

環境要素の区分	影響要因の区分	内容
海生動物 ・オオシャミセンガイ	護岸の工事 埋立の工事 埋立地の存在	<p><b>【理由】</b> 底生動物のオオシャミセンガイについては希少性がとりわけ高く、個体群の規模とその生息基盤が脆弱である可能性があることから、予測の結果に不確実性が存在し、環境保全措置として移植を講じることとしています。 移植に関する知見及び移植の事例は少なく、その効果に係る知見が不十分であることから、その効果に不確実性が存在します。</p> <p><b>【調査期間】</b>移植実施後</p> <p><b>【調査方法】</b>潜水による目視観察</p> <p><b>【調査箇所】</b>移植箇所</p>

## 環境監視調査

工事中や工事完了後の環境の状況の把握や環境保全のため、実施。

調査項目		調査頻度等	調査方法	調査地点
水質	濁度、浮遊物質	護岸工事中～ 護岸工事完了後	機器による計測又は採水器による採水	対象事業実施区域の周辺海域
	水温、塩分、水素イオン濃度、溶存酸素、化学的酸素要求量、栄養塩類等			
水底の底質	粒度組成、強熱減量、硫化物、化学的酸素要求量、水素イオン濃度、含水率、全窒素、全燐		採泥器による採泥	
重要な動物等 (海域に生息するものを除く)	鳥類	護岸工事完了後	定点観察法等	対象事業実施区域及びその周囲
海域に生息する動物	動物プランクトン、底生動物	護岸工事中～ 護岸工事完了後	定量ネットや採水器・採泥器等での採取	対象事業実施区域の周辺海域
海域に生育する植物	植物プランクトン			

## 6. 住民説明会の開催概要

# 70/72 6-1 住民説明会の開催概要

準備書：一

## 開催概要

項目	開催日時・場所	関係住民等 参加者数
第1回 (玉名市)	【日時】 令和7年9月29日(月) 19:00～ 【場所】 岱明防災コミュニティセンター	11名
第2回 (長洲町)	【日時】 令和7年9月30日(火) 19:00～ 【場所】 長洲町中央公民館	37名

第1回(玉名市)



第2回(長洲町)



# 71/72 6-1 住民説明会の開催概要

準備書：一

## 説明会での主な意見の概要と事業者の見解の概要

意見の概要	事業者の見解の概要
<p>環境アセスメントの説明で「影響なし」や「影響が限定的」といった表現が使われているが、自然を改変する以上、何らかの影響は発生するはずである。特に、流速が変化すればノリの色出しなどノリ養殖や海洋生物に大きな影響が出る懸念がある。</p>	<p>埋立てによって潮流や流速が変化する可能性があることは認識しています。 また、漁業への影響など、ご懸念されていることも承知しており、引き続き関係者の方々にご相談させていただきたいと考えています。</p>
<p>名石浜工業団地の未利用地など、陸上での処分はできないのか。</p>	<p>陸上での処分も1つの方法として考えられますが、長洲港では年間約6万m<sup>3</sup>程度浚渫しており、土砂は水分を含んでいるため、陸上に盛り上げるには広大な土地に加え、水切りの対応が必要となり、非常に難しい面があると考えています。</p>
<p>企業から排出される有害物質が海底に蓄積されている可能性があるが、これを埋め立てて人体への影響はないのか。</p>	<p>長洲港の浚渫土砂については、事前に「水底土砂に係る判定基準」を満足しているか調査を行います。企業が出す土砂についても同様の確認をお願いすることになります。</p>

## 説明会での主な意見の概要と事業者の見解の概要

意見の概要	事業者の見解の概要
<p>有明海は波が激しいため、海側の護岸の強度が心配だ。護岸の具体的な構造を教えてください。</p>	<p>波の強さに耐えうる構造となるよう設計を行っています。 また、海域の地盤が軟弱な部分は、地盤の改良や置換えを行い、しっかりした地盤の上に護岸を設置する計画です。</p>
<p>埋立地は、既存の工業団地の拡張のようなイメージで有効活用されると考えて問題ないか。 また、埋立てが完了する十数年後にはまた新たな処分場を探す計画が必要になるのか。</p>	<p>工業用地としての活用も一つの方法として考えられますが、最終的な活用については、役場や地域の皆様のご意見を伺いながら検討していく必要があると考えています。 また、現時点で他に検討している処分場はありませんが、港の航路を維持するため、計画的に次の処分場所を考えていく必要はあると考えています。</p>